

12月 19-25日

列王第二 18-19章

148番の歌と祈り

開会の言葉（1分）

神の言葉の宝

「反対者たちが私たちを弱らせる方法」（10分）

宝石を探し出す（10分）

王二 19:37 そして、ニスロク神の家(*神殿)でひれ伏していた時、自分の子アドラメレクとシャルエツェルに剣で殺された。その2人はアララト地方に逃げた。セナケリブの子エサル・ハドンが代わりに王になった。

考古学上の証拠を考慮する際に慎重さが必要なのはなぜか。

(洞-1 902 ページ5節) 一例として、聖書の記録によれば、アッシャリアのセナケリブ王はアドラメレクとシャルエツェルという二人の息子に殺され、もう一人の息子エサル・ハドンがその跡を継いで王座に就いたと言われています。 (王二 19:36, 37) ところが、あるバビロニアの年代記によれば、セナケリブはテベト20日に、反乱を起こした息子に殺されたと言われています。西暦前3世紀のバビロニアの神官ベロッソスと西暦前6世紀のバビロンの王ナボニドスはどちらも、セナケリブは息子たちのうちのただ一人の者により暗殺されたという趣旨の同様の記述を残しました。しかし、もっと最近になって発見された、セナケリブの跡を継いだ息子エサル・ハドンの角柱<プリズム>の断片の中で、エサル・ハドンは自分の兄弟たち（複数）が反乱を起こして父親を殺し、その後逃亡した、とはつきり述べています。フィリップ・ビベルフェルトは「一般ユダヤ史」（1948年、第1巻、27ページ）の中でこのことについて注解し、こう述べています。「バビロニア年代記、ナボニドス、およびベロッソスは間違っていた。ただ聖書の記述だけが正しかった。その記述は詳細な点においてもすべて正しいことがエサルハドンの碑文により確証され、またバビロニア・アッシャリア史のこの出来事に関してバビロニアの資料そのものよりも正確であることが証明された。これは、同時代の資料であっても、聖書の伝承と一致しない資料を評価する上で極めて重要な事実である」

今週の範囲からエホバについて何を学べたか。宣教でどんな点を活用できるか。ほかにどんな宝石を見つけたか。

(19:6) 「恐れてはならない」という言葉に注目。サタンとその手先が用いる企み^{たくらみ}（孤立無援だと思わせたり、疑念を植えつけようと、脅し、誘惑）から守られるため、エホバからの安心感やエホバへの信頼の必要を理解可。そのためにもエホバのご意志である宣教に今携わりエホバに助けていただぐスキルは本当に大切。勿論私たちは宣教を自分の救いの手段と考えていない。でも何よりもエホバを賛美し隣人に愛を示せる素晴らしい機会であり、これからも各自状況が違いますが機会が許されている間、恐れずに、出来る限り参加させていただきたいと思う

聖書朗読（4分）王二 18:1-12（教励 第5課）

野外奉仕に励む

最初の話し合い（3分）話し合いのサンプルの話題に沿って話す。集会に招待する。「王国会館においでください」の動画を紹介し、話し合う。（再生はしない）（教励 第1課）

再訪問（4分）話し合いのサンプルの話題に沿って話す。無料の聖書レッスンについて話し、聖書レッスン紹介用コンタクトカードを渡す。（教励 第2課）

話（5分）塔研 20.11 15 ページ 14 節 主題：迫害されている仲間にどのように祈れるか。（教励 第14課）

クリスチャンとして生活する

128番の歌

「迫害されても喜べる」（8分）討議。「何があっても喜べる迫害」の動画を再生する。

会衆の必要（7分）

会衆の聖書研究（30分）暮 レッスン 32 副見出し 1-4、「木についての夢と神の王国との関係」の表

閉会の言葉（3分）

22番の歌と祈り

（王二 18:1-19:37）イスラエルの王、エラの子ホシェアの治世の第3年、ユダではアハズ王の子ヒゼキヤが王になった。2ヒゼキヤは25歳で王になり、エルサレムで29年治めた。彼の母はアビ^{*}といい、ゼカリヤの娘だった。3ヒゼキヤは父祖ダビデと同じように、エホバから見て正しいことを行い続けた。4高い場所を取り除き、聖柱を打ち碎き、聖木を切り倒した。また、モーセが作った銅の蛇も碎いた。その当時までイスラエルの民はその前で犠牲の煙を立ち上らせていて



神の言葉の宝

反対者たちが私たちを弱らせる方法

反対者たちは、**教え導く人たちに関するうそ**を広めることによって、私たちを**落胆させよう**とする。[\(王二 18:19-21。塔 05 8/1 11 ページ 5 節\)](#)

エホバや組織に関する偽りを語ることによって、私たちを欺こうとする。[\(王二 18:22, 25 私がエホバからの許可なしにここを滅ぼそうとして上ってきたと思うか。エホバが私に、『この土地に攻め上って滅ぼせ』と言ったのだ。塔 10 7/15 13 ページ 3 節\)](#)

偽りの約束をすることで、私たちがエホバに従うのをやめさせようとする。[\(王二 18:31, 32。塔 13 11/15 19 ページ 14 節 14 アッシリアの王は、エルサレムの南西に位置するラキシュに陣営を張り、そこから 3 人の使者を遣わして、エルサレムに降伏を命じます。王の代弁者となったのは、ラブシャケという称号を持つ役人です。ラブシャケは様々な手を用います。ヘブライ語でユダヤ人に話しかけ、ヒゼキヤを裏切ってアッシリア人に従うように、そうすれば快適な土地に移住させる、と心にもない約束をします。 \(列王第二 18:31, 32\) 次いでラブシャケは、諸国民の神々が民を保護できなかったように、エホバもユダヤ人をアッシリア人の攻撃から救出することはできない、と主張します。しかしユダヤ人は賢明にも、そうした中傷的な宣伝工作に乗ろうとしませんでした。今日のエホバの僕たちも多くの場合、その方針に従います。—列王第二 18:35, 36。鑑 75 180 ページ 1 節\)](#)

考えてみよう：「**迫害に備えて信仰を強めるために、今どんなことができるだろうか**」。

[^ \(王二 18:19-21\)](#) するとラブシャケがこう言った。「ヒゼキヤに言ってもらいたい。『アッシリアの王、大王はこう言っている。『おまえはどうしてそこまで強気なのか。 20 おまえは『私には戦略と戦力がある』と言うが、それは口先だけだ。いったい誰に頼って、私に背くのか。 21 いいいか。おまえは、エジプトというあの折れかけたアシの支えに頼っているが、寄り掛かっても、それに手のひらを刺し通されるだけだ。エジプトの王ファラオに頼るなら、皆そのようになるのだ。

クリスチャンとして生活する

迫害されても喜べる



クリスチャンは皆、迫害を受けることを予期しています。 (ヨハ 15:20 奴隸は主人より偉くない、という私の言葉を覚えておきなさい。世の人々が私を迫害したのであれば、あなたたちをも迫害します) 迫害によっていくらかの不安を感じたり、時には痛みを感じたりするかもしれません、忍耐するなら喜びを実感できます。 (マタ 5:10-12 正しいことをして迫害されてきた人たちは幸福です。天の王国はその人たちのものだからです。 11 私のために非難(*侮辱)され、迫害され、悪意のあるうそをいろいろ言われるとき、あなたたちは幸福です。 12 喜び、歓喜しなさい。天での報いは大きいからです。以前の預言者たちも同じように迫害されました。ペテー 2:19, 20 神の前でやましいところのない良心を保つために苦難(*悲しみ/痛み)を忍耐し、不当な苦しみに耐えるのは、喜ばしいことだからです。 20 罪を犯したために打ちたたかれ、忍耐しても、それに何の価値があるでしょうか。しかし、善を行ったために苦しみに遭い、忍耐するなら、それは神にとって喜ばしいことです)

「何があっても喜べる迫害」の動画を見て、次の質間に答えましょう。

バジエノフ兄弟の経験談から、次の点の大切さについて何が学べますか。

①聖書を毎日読む

2か月間聖書も出版物も一切入手できなかった。それで、聖書を作ろうと決めた。妻がノートを送ってくれたので、毎日覚えていた聖句を書き出した。500ほど書いた時に聖書が手に入った。

エホバの言葉に飢えていたので、4ヶ月で読み切った。

②仲間の兄弟姉妹の助けを受け入れる*

投獄されている兄弟姉妹のために、名前を挙げて祈ることができます。個人的に手紙を送ることもできますが、支部事務所に転送を依頼することはできません。

この期間に妻や友達に手紙を書いて、読んだことから学んだ興味深い点を伝えた。友達や愛する妻から手紙をもらった時、本当に嬉しかったです。まるで隣にいるかのように近くに感じた。私は一人ではなかった。皆すぐそばに居てくれた。

③頻繁に祈る

一日中何度も何度もエホバに祈る。特に寝る前にはエホバに祈りたいだけ祈ることができた。官房で一人になった時は膝まづいて大きな声を出してエホバに祈った。エホバが直ぐそばに居てくださることを確信可

④王国の歌を歌う

一日中賛美の歌も静かに歌った。一人だけの時は、有りったけの声で歌った。

⑤自分の信仰について話す

出来る時にはいつでも聖書について話した。話した話題は本当にいろいろ。入れ墨、北の王だったり。

(ロシアの特殊部隊に家に押し入られ、警察に連れて行かれ、後に公判前拘留を言い渡された。刑務所で何をされるか分からなかつたので、怖かった。警察は、罪を認めて仲間のエホバの証人の名前を言えと命じ、そうしないとどうなるか分からないと脅した。妻と引き離されたことも本当に辛い事だった。…恐れたり心配していたことは何も起きなかつた。結局 343 日間拘留されたが、髪の毛一本も失われなかつた。人生で最も意義深い一年だった。エホバの奉仕者として自分を磨く素晴らしい学校に行つたみたいです。これほどエホバを身近に感じたことは無い。このような方法でエホバの主権を支持できたことを、誇りに思う)